

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」、「経済効果」、及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「養蚕新規参入者」及び「民間団体との協働日数」について、目標を達成している。 ■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「日本遺産の認知度」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「寄付金額」及び「地域プレーヤー数」について、概ね目標を達成している。 ■ 「絹製品需要拡大」について、目標を達成していない。
(4) その他	可	■ 「子供向け普及啓発活動」について、概ね目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	日本遺産に関連する寄附金を一定程度確保しており、地域の協力団体、民間企業との連携を進めているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		不可	日本遺産の認知度や地域コンセプトの浸透度が一定程度あるものの、各自治体の長期計画における日本遺産の位置づけを明確にするなど、戦略立案のさらなる強化が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価		可	地域プレーヤー数が一定程度あるほか、地域プロデューサーの確保、出前講座や体験イベント等をはじめとした人材育成のための取組に加え、民間主導の「絹ラボ」の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	日本遺産の観光案内機能を持つ公開施設の整備、案内板の修理や、ストーリー関連人物である永井いと像の展示など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	道の駅「甘楽」での座繰り・繭クラフト体験、桑の実収穫体験、低速電動コミュニティバスによる周遊促進を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	小中学生を対象とした出前授業の実施や、民間事業者と連携した普及啓発イベントの開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	SNSや企画展等の多様なチャネルを活用した情報発信を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ゲートウェイ施設によるストーリーの紹介やストーリーが体験できる事業を行う計画である点が評価できる。 ■ ビジョンとして描かれている「シルクカントリー」の再生創造や女性活躍の先進地づくりの実現に向けて、取組方策のさらなる具体化が望まれる。 ■ 観光の観点から、温泉などの地域資源との相乗効果を図る工夫が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 自走、好循環を意識している点が評価できる。 ■ 依然行政が核となった事業展開で、活用側の事業者を中心に据えた組織体制の展望について具体的な検討を図ることが望ましい。 ■ 民間の視点を取り入れ、全体の戦略を描き、マネジメントしていくための実務組織体の構築が望まれる。
総合評価	■ 「シルクカントリー」を謳う以上、規模はともかくシルク生産への拘りと、その中での新しい「女性活躍」の場づくりについて検討することが望ましい。 ■ 明治時代における絹と外貨の関係性、女性が活躍した背景、実際に作った絹の製品など、さらに幅広く深く説明することが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」、及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」について、目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	DMO、観光協会や商工会議所等の民間団体との連携、ふるさと納税による財源確保を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	高岡市観光振興ビジョンをはじめとする行政計画への日本遺産の位置づけ、マーケティング調査に基づく事業の検討や検証を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	地域プロデューサー数や有償ガイド登録者数が一定程度あるほか、地域プロデューサー人材の確保・育成、日本遺産ガイド養成講座の開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	構成文化財の整備事業、観光案内板の設置・修繕や多言語パンフレット作成を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	子供向けの高岡城跡探検ツアーの実施、インバウンド強化のための商談会への参加や日本遺産を体験できるツアー造成への支援を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	小学生向け高岡再発見プログラム事業、高校・大学と連携した日本遺産に関連する授業や、食を活用した普及啓発活動を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	SNSやアニメ制作、イベントPRブースへの出展等、多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 町民文化に根づく、歴史・文化・ものづくりに基づく地域づくりを進める点が評価できる。 ■ 具体的な事業については、現状と課題を分析したうえで立案できているものの、地域の目指す将来像（ビジョン）のさらなる明確化が望まれる。 ■ 日本遺産ブランドを観光戦略にどう活かしていくかについて、具体的に検討することが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 教育機関と連携して将来の中核人材を養成する方向性について評価できる。 ■ DMOや民間事業者、大学等の関係する団体を広く巻き込んだ体制であり、自立・自走を意識した計画となっている点が評価できる。 ■ 多様な団体等を巻き込んでいの中で、全体的な方向性のかじ取りや共有が望まれる。 ■ 「ものづくり」の町としての基盤整備や人づくりについて具体的に検討することが望ましい。
総合評価	■ 文化遺産が豊かな行政団体のまちづくり計画として一定のレベルに達している点が評価できる。 ■ 県内の他の日本遺産との相乗効果を創出し、官民連携による地域活性化を一層推進することが望ましい。 ■ 「ものづくり」の町として、ビジョンにある「市民の力、心意気」を再生するようなストーリー構築と事業化に注力することが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成している。 ■ 「歴史・産業観光入込」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「出前講座の回数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「サイト・SNSのリーチ数」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	日本遺産サポーター数が増えているほか、民間主導での組織運営・事業実行や、クラウドファンディングによる財源を確保するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	文化財保存活用地域計画や観光まちづくり戦略等の行政計画への位置づけが行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	地域プレーヤーとの連携強化、インバウンドツアー対応人材の育成や構成文化財の文化的価値を発信できる人材の育成を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	熊川宿・小浜西組エリアの景観・基盤整備、一棟貸しの分散型古民家ホテルの棟数拡大、説明板・案内看板の拡充や交通アクセスの整備を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	外国人観光客が増えているほか、ストーリーを体感できるサイクリングツアーの実施や、日本遺産関連商品の開発と販売拡大を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	民間主導の普及啓発イベントの開催、小学生による鯖街道踏破体験の実施や、構成文化財「若狭塗」を題材とした小学生・高校生との協働事業の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	観光協会のホームページやSNSを活用した情報発信のほか、英語情報発信サイトの整備や民間からの情報発信の仕組化を推進するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 歴史文化基本構想・文化財保存活用地域計画を核にした計画的な日本遺産事業と地域づくりビジョンが明確である点が評価できる。 ■ 御食国若狭と鯖街道のコンセプトのもと、分野横断的に地域総がかりで取組できており、観光の拠点化や商品開発など、多くの成果をあげている点が評価できる。 ■ ビジョンが明確に描かれており、これを実現するための広範な取組が計画されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMOを核とした古民家再生プロジェクトの成果を引き継ぎ、「宿泊以外の滞在コンテンツの整備」、御食国としての「食（食文化）」の事業化、新たな道の駅の開業と日本遺産創出製品の販売など、体系的な事業計画ができている点が評価できる。 ■ 適切な組織体制であり、役割も明確である点が評価できる。 ■ 体制づくりの根幹はシビックプライドの醸成と明確に位置づけられ、人材育成に重点をおいて取り組む点が評価できる。
総合評価	■ 明快な日本遺産のストーリー、および日本遺産認定までに地元が築いてきた事業実績が活かされた具体性がある計画になっている点が評価できる。 ■ 一過性のイベント等に依存するのではなく、文化資源を活かした地域経済の再生という意味で、日本遺産のモデルともいうべき事業計画になっている。 ■ 古民家ホテルの継続や若狭塗りの販売などをはじめ、構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組が進められ、日本遺産を活かした地域の活性化のモデルともなりうる。
評価結果	特別重点支援地域に認定

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込客数」、「外国人観光客数」、及び「宿泊者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として目標を達成している。

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	地域協議会の構成員数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		不可	実績報告書に記載されている数値と評価指標との関係が不明であり、日本遺産事業を活かす「戦略立案」についての取組を具体的に示すことが望まれる。
(３) 人材育成	個別評価		可	ガイド養成講座や現地研修会の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	案内看板の設置・更新や多言語対応を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	構成文化財におけるライトアップによる夜間観光の促進、日本遺産を巡る着地型バスツアーの実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	小学生向け出前授業の実施や、大学の地域学の授業等における日本遺産の普及啓発を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	ウェブサイトのページビュー数やSNSのフォロワー数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域資源の特色を活かしたビジョンが明確であり、課題や取組の方向性についてしっかりと分析されており、事業を行う上で必要な取組が記載されている点が評価できる。 ■ 周知度の高い琵琶湖を活かした一体的な地域活性化の具体策を示すことが望ましい。 ■ 滋賀の水の恵みをテーマとしたストーリーが県民の日々の暮らし文化の中でどのように活かされているのか、またそのことを県民がどのように認識しているのか、といった原点にもどり、これらを再生する中で新たな地域創造につなげるような視点を持つことが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 行政主体の体制となっており、民間事業者との連携強化が望まれる。 ■ シリアル型のメリットを活かせるような体制整備が望まれる。 ■ 事業の収益化など自立自走に向けた具体的な取組を示すことが望まれる。
総合評価	■ ビジョンは明確であり課題分析も適切である点が評価できる。 ■ シガリズム（滋賀らしいツーリズム）を暮らし・祈り・食としてどのように表現し、体験・体感できるようなプログラムにできるか、またこれらの事業を担う事業者をどのように発掘し支援するかなどの方策を具体的に示すことが望ましい。 ■ 広域におよぶ琵琶湖の歴史・文化ストーリーを基軸においた一体的な活用策を打ち立てることが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」、及び「経済効果」について、目標を達成していない
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 法人パートナー数と協議会の収益額が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ DMOにおける観光地域戦略の改訂やマーケティング調査を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プロデューサーや地域プレーヤーが一定程度存在しており、英語対応できる日本遺産ガイドの育成や通訳案内士の組織化を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	不可	■ サブストーリーの抽出等の取組は行っているものの、「観光客の滞在時間の増加」という指標について実績を測定していない。また、整備に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 着地型旅行商品の造成・販売、宇治茶プレミアムブランド化を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 小中学生向けキッズ茶ムリエ検定事業や宇治茶ムリエ認定者マスター講座、府民等向け体験プログラム「オンライン宇治茶ムリエ講座」を開催するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ウェブサイトのページビュー数が一定程度あり、多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	■ 全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ お茶の京都DMOを中核に、宇治茶の生産環境の整備と観光振興を狙うバランスの取れた構想(ビジョン)が描かれている点が評価できる。 ■ 宇治茶ムリエの育成や観光ループバス事業や着地型旅行商品の開発など、各種の工夫がなされている点が評価できる。 ■ 移動が難しい地域で観光の足を確保する観光ループバス事業を行っている点が評価できる。 ■ 構成文化財の継承に係る事業の検討が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ お茶の京都DMOを中核に、マーケティング、人材育成や観光事業などが推進される体制となっている点が評価できる。 ■ 自立自走に向けた工夫の具体的な検討が望まれる。 ■ 観光事業者と茶業関係者との連携が確立されているが、今後は地域づくり部門や文化財部門との連携強化が望まれる。
総合評価	■ 地域のビジョンに基づいた普及啓発・観光事業・宇治茶のブランド事業などの位置づけを示すことが望ましい。 ■ 地域の強みと弱みを踏まえた取組の具体化が望ましい。 ■ 体験や滞在コンテンツのさらなる充実に注力することが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「観光消費額」について、目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ ふるさと応援団員数やふるさと納税額が一定程度あるほか、「Masse丹波篠山」をはじめとする民間主体の取組環境を整備するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 観光まちづくり戦略に基づく進捗管理、行政計画への日本遺産の位置づけや、大学と連携した観光動線調査の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プロデューサーや地域プレイヤーが一定程度存在するほか、小学生・高校生のガイド人材の育成や篠山イノベーターズスクール事業を通じた地域活動の担い手の育成を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 公式観光サイトにおける構成文化財の英語解説文の掲載、デカンショ節の歴史等を伝える丹波篠山デカンショ館の運営、宿泊施設の整備促進を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 里山暮らしツアー、丹波篠山周遊バスツアーや外国人向けファムトリップの実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 市長による学校日本遺産出前講座、丹波篠山デカンショ祭の継続開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 公式観光サイトやSNSを活用した情報発信、丹波篠山市民サポーターによる情報発信、旅行ガイドブックの制作・販売など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	■ 全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域の産品、伝統的集落・里山景観を連携した具体的でかつ持続可能な事業計画が多数盛り込まれている点が評価できる。 ■ デカンショ節を生み出した豊かな自然、農村風景、城下町の町並みなどを観光資源とするという方向性は素晴らしいが、それらを一体的に享受するためのモデルコースなどの深掘りを図ることが望ましい。 ■ 具体的な取組の記載がされているものの、現状と課題の分析結果を踏まえた地域の目指す将来像をより具体的に示すことが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ ヒトづくり（丹波篠山人）をはじめ、町並みと農村景観、歴史文化・芸術、田園風景、農の都、食の聖地づくりなどの事業計画が体系的に描かれている点が評価できる。 ■ 日本遺産を活かした観光に向けた官民一体の体制になっており、自立自走でも収益確保のためカフェやプロデューサーの設置等、多くの方策がとられている点が評価できる。 ■ これまで以上に組織整備が充実する予定となっている点が評価できる。
総合評価	■ ビジョンも含め全体的によく活動できているが、事業の重点化など、メリハリのある事業展開を図ることが望ましい。 ■ 国選定の伝統的建造物群である町並みの保存整備が核となり、安定した事業が進んでいる点が評価できる。 ■ 取組や体制は全体的にバランスが良く評価できるが、今後、より発展的な取組を行うことが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。 ■ 「観光消費額」について、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ DMOとの連携やふるさと納税の推進など、組織整備の取組が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 尾道市における各種計画に位置付けられているほか、ホームページやアプリのアクセス分析等が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 文化遺産パートナー養成事業や教育機関と連携した人材育成事業がなされているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 新たなビジターセンターの設置・運営や、まちなか文化交流施設の整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ ロープウェイ乗降者数やレンタサイクルの貸出実績が増加基調にあるほか、サイクリングツアーやクルーズツアーなどの観光事業化の取組が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 日本遺産の認知度が高い水準にあるほか、小中学校や大学での授業を通じた普及啓発の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページ、SNSや日本遺産アプリなどの多様なチャネルを活用した情報発信が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ これまでの取組の成果や課題を踏まえ、地域が目指すべき将来像として、日本遺産ストーリーでのパッケージ化に取り組むことが望まれる。 ■ また、日本遺産認定地域であることの普及や日本遺産ストーリーを伝えるための環境整備、情報発信の拠点等の整備が望まれる。 ■ 尾道ならではのポイントを地域ビジョンに掲げることが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 自治体主導のもとで民間事業者の巻き込みは不十分であるが、参画団体間の役割分担が明確にされており、実施を実施するにあたっての体制が一定程度整備されている。 ■ 人材育成や組織経営基盤の構築など、自走自立に向けた取組をさらに強化することが望まれる。
総合評価	■ 全体として及第点にあるが、「箱庭的都市」の魅力を活かす方向性の更なる具体化を図ることが望まれる。 ■ 事業の実施に対して問題がない組織体制をある程度整えているが、日本遺産事業ならではの価値を明確にすることが望まれる。 ■ 民間事業者も巻き込んだ、より自立自走を意識した戦略の策定・実施が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客」及び「宿泊者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 日本遺産関連の協力団体や、協賛・寄付団体が一定数あるものの、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの日本遺産整備に資する資金の獲得が進んでおらず、外部資金の獲得に向けた取組の強化が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 構成自治体の行政計画において日本遺産が位置付けられているほか、各種調査結果を踏まえて既存事業の見直しや新規事業の立案を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ ガイド人材の育成を行うとともに、次世代の担い手を含む担い手の掘り起こしを図るなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 四国遍路に係る遍路道、札所、ヘンロ小屋や案内・解説板等の整備を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ モデルコースの造成に加え、ガストロノミーやトレイルのような新たな要素を加えたツアーの商品化、外国人遍路向けツアーの提供など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 民間主導による普及啓発イベントの開催、住民向け講座の開催、学校における郷土学習の実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 協議会ホームページやSNSを活用した情報発信、ガイドブックやパンフレットの作成・配布、公認アンバサダー制度の検討など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	■ 全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ これまで4県の連携で活動を継続させている点は評価できるが、ビジョンのさらなる具体化が望まれる。 ■ ストーリーに関する施設整備や受入体制の整備等、これまでの取組の課題を踏まえた計画を立案できている点が評価できる。 ■ 「四国遍路」の歴史と文化を「お遍路さん」や地域住民に深化させることが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 4県連携推進費、ふるさと納税やクラウドファンディングなどを活用する計画となっているものの、今後の事業に必要な予算を確保する工夫を強化することが望ましい。 ■ アドバイザーの設置や大学等と連携した体制を構築するなど、協議会を構成する四県の一体的な推進が可能な体制となっている点が評価できるものの、相乗的・効率的な運営を実現するための具体策を検討することが望ましい。
総合評価	■ 関係者の意欲が感じられる計画となっている点が評価できるが、心の旅のストーリーの掘り下げや取組の一層の工夫を図ることが望ましい。 ■ 相当数の構成団体で構成されているため、地元の整備計画、世界遺産推薦準備作業との差別化を図ることが望ましい。 ■ 解説案内板の内容の充実と設置にもっと注力することが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成していない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 個人サポーター・法人サポーターの数は一定程度あり、ワーキング会議を通じて民間事業者や関係団体等と連携するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 日本遺産認知度や地域コンセプトの浸透度が上昇しているほか、日本遺産構成文化財の活用戦略を策定するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プロデューサー設置・育成事業、ガイド養成事業、地域ナビゲーター育成事業を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産コーナーの設置、構成文化財における案内板の設置、多言語解説パンフレットの制作や多言語音声ガイド整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 旅行商品の造成、トレッキングコース設定、土産品開発やパンフレット機能を持ったパスポートの販売など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 小中学生を対象とした日本遺産学習事業の実施、市民講座の開催、巡回遺跡展やパネル展の開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 協議会ホームページやSNSを活用した情報発信、メディア合同招聘事業など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価			可	■ 全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 「国境の島」のストーリーを朝鮮通信使やスポーツ、アート、環境など、現在の交流事業として具体化しようとしている点が評価できる。 ■ 国境の島での交流と絆をテーマに、4つの取組について現状と成果と課題を整理し、多彩な事業を計画している点が評価できる。 ■ ビジョンが明確であり、取組に関する分析がなされているものの、集客目標の設定に関する再検討が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 自治体や民間団体など、推進協議会での役割分担は明確であるものの、島嶼部の連携について強化することが望ましい。 ■ 自立自走について財源確保を含めて具体的な検討が進められているものの、各取組に関して、全体の方向性を調整して取組のマネジメントを実施することが望まれる。
総合評価	■ 国境の島としての特性を生かした国際交流に重点をおいた事業計画が期待できる。 ■ 離れた島嶼部でのシリアル型といういささか難しいケースだが、将来像や組織的対応がよく検討されている点が評価できる。 ■ 取組及び組織整備の両面においてまとまりがあり、事業の確実な実施が期待できる。
評価結果	認定継続